

みんなが過ごしやすい社会を目指して 一災害編一

3年1組25番 柳井アリサ
3年5組29番 古川葵

Keyword: 「災害」「防災」「外国人」「情報難民」「SOSカード」「コミュニケーション支援ボード」

1. はじめに

災害が発生したときや発生の恐れがあるとき、正確な情報を得ることが防災や減災を図るためにとても重要である。しかし、日本に在住する外国人や外国人観光客は日本語によるコミュニケーションが十分にできないことが多い。言葉の壁や文化の違いなどから、重要な情報が届きにくい。過去の大規模災害では、外国人に必要な情報や支援が届かなかった事例もある。2018年6月の大阪北部地震や同年9月の北海道胆振東部地震では、大勢の外国人観光客が駅や空港にあふれた。日本は世界でも有名な地震大国であり、今後30年以内に発生すると言われている南海トラフ地震の大きな揺れに見舞われる確率も高い。私たちが住む奈良県には外国人観光客が多く、国土交通省によると、2024年1月分の外国人延べ宿泊者数は約280万人にもものぼった。そこで、私たちは日本に住んでいる外国人や外国人観光客が、地震などの災害が発生した時、避難が遅れて被害を負うことがないように、どのようなことに困り、どんな対策が必要なのかを探究することにした。

2. 序論

この探究では、外国人の防災意識の向上と災害時における在日外国人・在留外国人・訪日外国人の情報障壁の軽減を目的とした。日本という国の、災害の多さを広めることでより多くの外国人が安心して観光、生活ができると思ったからだ。下記は先行研究である。東日本大震災を経験した訪日外国人旅行者を対象に、観光庁が実施した表1の調査によると、発災時、多くの訪日外国人旅行者は、自ら携帯電話・スマートフォン等で母国の知人等から情報収集を行っていたものの、なかには正確でない情報も含まれていたという問題が明らかとなった。また、日本国内で母国語での情報提供が不足していたため、どのような災害が発生しているのか把握できない状況に陥っていたことがわかる。考えられる原因として、外国語での情報提供の不足、外国人と日本人の間でのコミュニケーションの障壁があげられる。

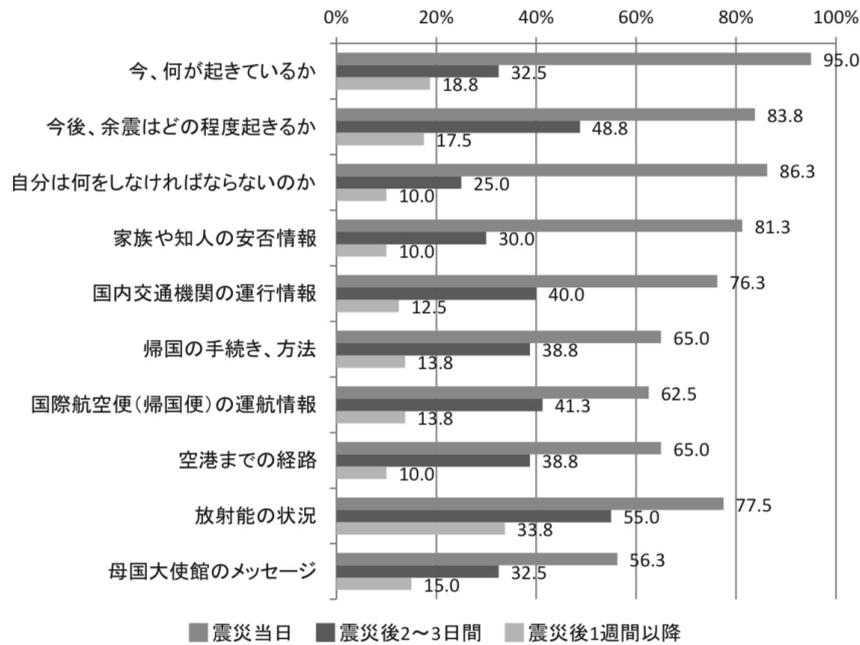


表1 震災発生時に必要としていた情報内容と知りたかった時期

それらを解消するために私たちはどのような取り組みが行われているのかを調査した。そこで、広島県呉市が行っているSOSカードと明治安田こころの健康財団が啓発普及活動を行っているコミュニケーション支援ボードを見つけた。SOSカードとは災害時に日本人に見せることで助けを得られるよう、外国の方に携帯してもらうことを目的としたカードである。「助けてください」「今何が起こっていますか?」「私を避難所に連れて行ってください」などの日本語と外国語の併記がしてあり、外国の方が伝えたい事を指し示すことができる。また、コミュニケーション支援ボードは、話し言葉によるコミュニケーションにバリアのある知的障害や自閉症の人たちが使いやすいコミュニケーション支援のツールの開発と、それが使える地域の環境作りを目指したものである。私たちはこれを外国人とのコミュニケーションにも活用出来ると考えた。

3. 本論

この先行研究を参考に、私たちはオリジナルのSOSカードとコミュニケーション支援ボードを作成することにした。まず、SOSカードは、奈良を訪れる外国人訪問客数の国別割合のデータと話者が多い世界の言語ランキングを参考にし、英語、韓国語、中国語、フランス語、タイ語の5つの言語でカードを作成した。土砂崩れ、地震、そして洪水の3つの災害をイラストとともに表記し、そのイラストに指をさしてもらうことで、その時どんな災害が起きているのかを知ることができるようにした。そしてコミュニケーション支援ボードは、明治安田こころの健康財団さんのボードを参考に、九つの項目を日本語と英語で、オリジナルのイラストとともに表記した。

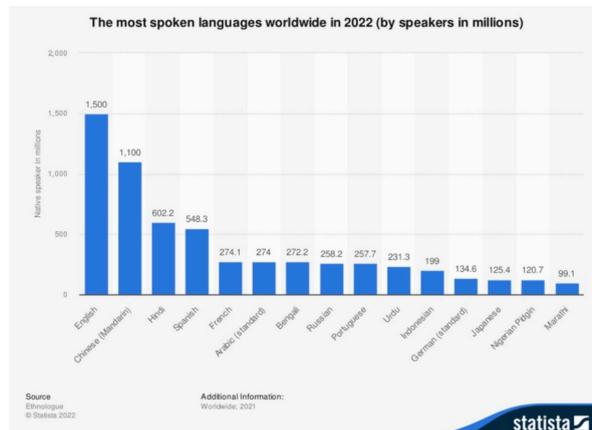
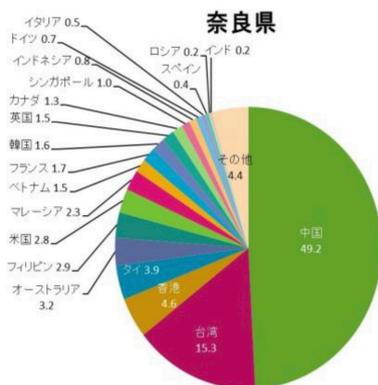


表1 奈良県の観光客の比率

表2 各言語の話者数

このSOSカードとコミュニケーション支援ボードを普及させるために私たちは、まず身近な人たちに知ってもらうことにした。SOSカードは、留学生の生徒や外国籍の友人家族に配布し、彼らの知り合いや友人にも配ってもらえるように頼み、SOSカードの存在を知ってもらった。そしてコミュニケーション支援ボードは、クラスメイトに実際に使ってもらい、使い方を広め、災害時だけでなく、外国人とのコミュニケーションに困った時に使ってもらえるように広めた。SOSカードやコミュニケーション支援ボードを、身近なものと感じてもらえることで、徐々に普及していくと考える。アイテムそのものの存在ではなく、使い方も併せて広めることで災害時に困る人が減ると考えた。



図1 SOSカード

図2 コミュニケーションボード

4. 結論

結論として、私たちは災害時の外国人とのコミュニケーションの障壁を払拭するためにSOSカードとコミュニケーション支援ボードを広め、少しでも災害時における外国人情報弱者の減少に勤めた。また、更なる普及を目指し、SOSカードとコミュニケーションボードを公共施設に設置し、表記する言語をスペイン語や、ベトナム語など奈良に訪れる外国人訪問客数が多い順に増やすなどし、これからも活動を続けていきたい。

5. 参考文献・出典

奈良県公式ホームページ. "外国人訪問客数". <https://www.pref.nara.jp/44291.htm>, (2024-10-18)

Latis Global. "話者が多い世界の言語ランキングTOP10". <https://latisglobal.com/ja/blog-ja/the-10-most-spoken-languages-in-the-world-20220916/>, (2024-10-18)

呉市国際協会. SOSカード. <http://kurekiea.com/shien/soscard/>, (2024-9-27)

公益財団法人 明治安田こころの健康財団. "コミュニケーション支援ボード". <https://www.my-kokoro.jp/communication-board/>, (2024-9-20)

相引梨沙、義澤 宣明、山口健太郎、下村徹、氷川珠恵、瀧陽一郎、山添真喜子、栗山章 訪, 2016, 「日外国人旅行者に向けた災害情報提供のあり方」J-STAGE 安全工学 55巻3号 https://www.jstage.jst.go.jp/article/safety/55/3/55_182/pdf-char/ja (2024-9-20)